

健康登山43: 自然歩道21 (曾爾高原 & 俱留尊山)

コース	民宿豊栄 2.7km/55 葛橋 1.4km/28 ファームガーデン 1.4km/39 青少年自然の家 1.9km/59 亀山 0.4km/10 亀山峠 1.4km/69 俱留尊山 0.4 / 14 三ツ岩 1.3km/33 西浦峠 1.2 km /38 清水平 1.6km/23 中太郎生		
水平距離	13.7km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	18.3km		
累計高低差	登り1061m、下り1074m		
標準歩行時間	6 : 07		
実績歩行時間	6 : 02		



山行報告

山行日 2008・11・14 (金) 天候 快晴 参加者 6名

民宿豊栄7:58 葛橋8:50 ファームガーデン9:18 青少年自然の家10:22 亀山10:55
 亀山峠11:13 俱留尊山12:14~13:01 三ツ岩13:33 西浦峠13:48 清水平14:30
 中太郎生バス停15:00~50 名張駅16:50 (解散)

記 録

民宿には7時に朝食を頼み、8時に出発し一旦横輪バス停から高原ロッジまで戻った。東海自然歩道は青蓮寺川沿いではなく山腹に作られているためである。自然歩道らしい地道を通って車道に出ると葛橋がある。この橋を渡り曾爾高原ファームガーデンまで緩やかな登り道となる。この道では初め兜岳が正面に大きく見え、やがて天を突くように聳えている鎧岳を見ることになる。鎧岳は南から見上げる形が一番良い。

ファームガーデンから急坂を登り曾爾高原にある青少年自然の家に着いた。ススキで有名な曾爾高原のベストシーズンで平日にもかかわらず大賑わいだった。

お亀池の縁を歩き、南端から亀山に登り、亀山峠まで縦走した。東海自然歩道は亀山峠から東へ向かいくろそ山荘、池ノ平高原、清水平を経て中太郎生へ続いている。私たちは亀山峠から北へ続く稜線を登り二本ボソ、俱留尊山へ向かった。二本ボソの手前からは曾爾高原の全景と古光山が一望できる。二本ボソ以北は私有林で維持管理のために500円の入山料がいる。

俱留尊山1037.6mは日本300名山に数えられるが、展望はそれほど良くはない。俱留尊山から北へ進むと三ツ岩、西浦峠、七曲りを経て清水平へ下りられる。また亀山峠まで戻って東海自然歩道を歩くこともできる。少し迷ったが初めての道なので西浦峠コースを選んだ。

亀山峠からの道に比べると、起伏も少なくガラガラと長いだけの道である。やはり亀山峠へ戻り、東海自然歩道を中太郎生へ向かう方がよいと思う。亀山峠からは150mの急斜面を下り、その後は池ノ平高原のなだらかな山腹を歩くので変化がありそうである。

清水平から中太郎生へ下る途中で、正面に次回登る大洞山がきれいに見えた。

中太郎生バス停には予定どおり15時に着いた。少し北にある南出口バス停前まで歩き、バス停前の丸八商店で休ませてもらいながらバス待ちをした。

自然歩道（曾爾高原と倶留尊山）



鎧岳を背にして
8:30

倶留尊山と
曾爾高原
8:41



兜岳と鎧岳
9:11

曾爾高原散策
10:26



曾爾高原風景
10:36

曾爾高原と
古光山
11:32



二本ボソから
倶留尊山
11:44

倶留尊山にて
13:01



三ツ岩から
美杉町の風景
13:33

大洞山
14:34



名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：曾爾高原と倶留尊山）

参考資料、ノHP、曾爾村観光パンフ、その他より

曾爾高原ビール：ドイツのブルーマイスター直伝の製法で仕込み、発泡酒を含む6種類が作られています。ほかにビールソフト300円も販売されています。

（曾爾ファームガーデンで販売 10:00～18:30）

お亀の湯：曾爾高原温泉、大人500円、午前11時～午後9時（最終受付午後8時）

曾爾高原：倶留尊山から亀山を結ぶ西麓に広がるすり鉢状の高原。秋、ススキの銀の大海原が一面に広がり、大勢の人で賑わいます。

【ススキ】イネ科の多年草。別名「萱」、「尾花」とも呼ばれる。

昔は在所地区の屋根葺きに使われた。

ススキの「スス」は葉が真直ぐにすくすく立つことを表わし、「キ」は芽が萌え出る意味の「萌(キ)」だといわれている。

ススキ以外の植物の生育を抑え、山焼きで発生した灰は肥料とする目的で毎年3月に山焼きが行われています。

お亀池：昔、太郎路の集落にお亀という大変美人の人妻がいた。

お亀は毎朝井戸で水鏡を見ていた。その井戸の水源は亀山の池からきていた。そのうち子供が一人生まれた。お亀は「私の役目は終わりましたお暇を下さい」といって子供を残して亀山の池へ行ってしまった。夫は大変困り、泣く子を抱いて池のそばに行き大声でお亀を呼んだ。すると池の中からお亀が現れ、乳を沢山飲ませてまた隠れた。また翌日も同じように乳を飲ませたうえ、お亀は改めて夫に向かい、もうこれから二度と来ないようにといって隠れてしまった。

しかし子供があまりに泣くので夫はまた池に行ってお亀を呼んだ。すると池の水が騒ぎたち大蛇が大口を開いて迫って来た。夫は肝をつぶして一目散に逃げた半里ぐらい逃げてやれかれと振り返ると、まだ大口を開いて迫って来る。男は家に帰るとすぐに病気になる死んだという。そこからこの池をお亀池というようになった。（元の池は太郎路池と呼んだとか）

子供は無事に成長し、その後大蛇は山火事で死んだという。

大口を開いて迫って来た辺りを今も大口とよぶそうです。一直線に追いかけてきた所を立堀、大蛇が疲れて休んだ所を弊足(びょうそく)、水を飲んだ所を水舌(みずのみ)と称するそうです。（奈良の伝説より）

【お亀池】火山の火口でないかと言われているが、地滑りによる窪地湿原だそうです。池の水は浅く雨水と亀山からの僅かな伏流水によって貯えられているよう

です。上方から見ると瓢箪の形に見えます。

9月中旬から10月中旬、毎年池の周囲に灯籠の山あかりが灯されます。

亀山：標高849m、亀の背に似ているので亀山とか。「亀山峠」は標高810m、太郎越えといわれた。太郎は三重県美杉村の太郎生(タロウ)からきています。

二本ボソ：標高996m、地形が鰯(いわし)の口先に似ている所から来ています。

倶留尊山：曾爾村の最高峰。標高1038m、三等三角点。山名は倶留尊大権現から。伊賀見地区山麓にある高さ15mの岩柱の倶留尊大権現(石仏)から命名。石仏は岩柱状(石柱)になっています。拘留孫仏として信仰が厚かった。

三つ岩：標高891m、倶留尊山から北への縦走路30分のところあり、二本ボソの垂直の柱状節理の岩壁を横から見渡せる絶景ポイントになっています。

三つ岩から西浦峠を経て1時間で池の平に着き、亀山峠からの道と合流し中太郎生バス停までのお薦めコースとして紹介されています。

(亀山峠往復では見られません)

論所：曾爾村と太郎生村が萱を刈る場所をめぐって論争した事を物語る場所です。倶留尊山と三つ岩を結ぶ稜線の西側にあるとか。そして『論所峠』の地名が「中高年向き山100コース関西編」の中にあるそうです。

太郎生村の山は萱が生い茂っていたが、杉の植林に変わっていった。

そして美杉村(2006年より美杉町)の地名が付くようになった。

池の平高原：花野ともいわれた。高原の湿原であった。岩山遺跡で教育委員会の遺跡分布図で縄文、室町遺跡となっているそうです。

(池の平でも同名のおかめ伝説が有り龍となって昇天したという)

この高原は、朝の光を受けて輝き、朝の高原と呼び、池の平を歩くのは朝がよいといひます。一方、西の曾爾高原は午後の高原といひます。

南出口バス停：この辺りは伊勢、伊賀、大和との三国の境になります。

三国屋旅館(休業中)が境界を表わしています。

バス停向かいの丸八商店のカヤの実のお菓子「権太郎生」は銘菓。